

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	13
基本施策	4	商工業の振興	評価責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	3	町民を支える商店街づくりへの支援		

1 施策の概要

基本方針	日常の食材、日用品等の購入に欠かせない地元商店の振興を図るとともに、商工会による買物環境向上事業への支援を進めます。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	人口減少と高齢化が進む中で、商店街活性化のため、関係機関と連携しながら進めている。また、平成23年度から商店街での買い物に不便さを強いられている高齢者への御用聞き、宅配事業を商工会が実施している。	人口減少と高齢化が進む中で、商店街活性化のため、関係機関と連携しながら進めている。また、継続して買い物に不便さを強いられている高齢者への御用聞きや宅配事業、更には安否確認等を商工会が実施している。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	商店街の活性化を図るため、より一層の施策が必要であり、また、移動販売推進事業については、買い物に不便さを強いられている高齢者へ更に利便性を提供する事が必要である。	商店街の活性化を図るため、より一層の施策が必要である。また、移動販売推進事業については、買い物に不便さを強いられている高齢者の利用者数の増加を含め、更に利便性を提供する事が必要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	サービス業就業者数					
	定義等	国勢調査等によるサービス業就業者数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		599人	598人	578人	572人	600人
指標2	指標名	年間商品販売額					
	定義等	商業統計調査による年間商品販売額					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		（未調査）	（未調査）	（未調査）	（未公表）	140億円
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	ふるさと夏まつり盆踊り大会補助事業	商工観光係	500	A	継続/現状維持	A
②	地域交流センター管理・清掃業務委託事業	商工観光係	5,895	A	継続/現状維持	A
③	大通り商店街協同組合街灯費補助事業	商工観光係	320	A	継続/拡充	A
④	買物環境向上事業	商工観光係	2,400	B	継続/現状維持	A
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	経済の低迷化が長引く中、地元購買力等を高めるための施策は、住民を支える立場として必要な施策である。
② 有効性	A	構成する事務事業ごとに工夫された活動がなされており、有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	構成する事務事業においては、企画立案・自助努力もしながら実施しており、住民ニーズもとらえた中で施策展開しており、効率的であると判断する。
④ 公平性	A	広く住民を対象とした事業展開を行っており、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	特に住民の意見を聞く場は設けていないが、関係団体で参加者等の声を聞きながら実施しており、町としても情報共有しながら支援を行っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
商店街の活性化は、地域住民が安心して生活ができる環境でもあることから、今後においても必要不可欠な施策である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
住民が安心して生活する上で、商店街の活性化は必要不可欠であり、今後においても継続して実施する必要がある。なお、移動販売事業においては、さらに利便性が図られるよう取り組んでいく。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止